

はじめに

本表は 2009 年 12 月 13 日、愛知県北設楽郡東栄町中在家地区で行われた花祭を、舞とそれに付随する衣装・仮面・持ち物を中心に時系列的に記したものである。

中村茂子氏によれば（『奥三河の花祭り—明治以後の変遷と継承—』2003 年、岩田書院、48-49 頁）、中在家の花祭は奥三河の中では最も新しい発生で明治 5 年に創始されたとする。少戸数地区であった中在家では足込の花祭を移入し、当初は面を借り重要な舞は足込の人が演じたという。

足込は振草系の舞のスタイルを持つ。このことから中在家の花祭は振草系と思われがちだが、実際の祭をみると振草系だけではなく、大入系の舞も入っているように思われる。少戸数の中在家ゆえ自地区の舞手だけでは補えず、足込からだけではなく大入系の舞を持つ地区からも祭の手助けが来ているからであろう。三上敏視氏が言うように（『神楽と出会う本』2009 年、アルテスパブリッシング、36 頁）、花祭とはその時代、状況において「変化する生きた祭り」なのであり、中在家にはその典型をみることができるのである。

当日開催された花祭は神奈川大学日本常民文化研究所国際常民文化機構「アジア祭祀芸能の比較研究」（野村班）のメンバーによってビデオ及び写真撮影され、そのデータをもとに作成した。

撮影データは神事的舞である「楽の舞」から始まり、舞庭から降ろされたびゃっけ・湯ぶたを中在家熊野神社に納める「宮渡り」までを収録している。他に神事もあるがこれには触れていない。各舞の呼び名、面の名称などは中在家花祭保存会会長の原田巖氏にご教示いただいた。表に記載される時間は、舞手が舞庭に入った時間を起点とし、その舞の行動主が舞庭を出た時を終了とした。

また中在家花祭の空間を大きく「舞庭」と「せいと」に区分し、舞を鑑賞する人々を「せいと衆」と表記している。舞手については中在家の呼称に従い、幼児から中学生までを舞子、中学生以上を舞手とした。

2009年12月13日開催

凡例：

①舞の名称は中在家で呼称するものに従った

②行動主とは舞庭（又はせいと）で舞を行う中心人物（役柄）であるが、花祭では観客（せいと衆）も祭を構成する一員であることから、演目ではなくても舞庭において主体的な舞を行った場合、行動主の項目に記載した

③竈が設けられ神事や舞を行う空間を「舞庭」、せいと衆が鑑賞する場所を「せいと」、神棚を設け樂を奏し、太夫（宮人）がいる場所を「神座」と便宜上区分した

④神楽では持ち物を一般に「採り物」と称するが、本表では「祭具・持ち物」とした

時間	舞の名称	行動主	行動	場所	祭具・持ち物	仮面	装束	音楽	その他	写真番号
8:05	楽の舞(撥の舞) scene1	老人1人	竈の前に蓆を敷き、その上でへんべ(反閉)を踏みながら舞う。太い撥を2本持つ	舞庭	撥	なし	烏帽子・ゆはぎ(白い羽織)・袴・草履	笛		
8:07	楽の舞(撥の舞) scene2	同上	竈の前の蓆から外れ竈の周りを廻りながら舞う。蓆は撤去される	同上	同上	同上	同上	同上		
8:08	楽の舞(撥の舞) scene3	同上	蓆が敷き戻されその上で撥を胸前で揃え竈に二礼、神座に二礼し神座の太鼓役に撥を渡す。太鼓役は撥で二打し、舞手は退場	同上	同上	同上	同上	同上		
8:15	順の舞 scene1	老人1人、青年2人	扇をたたみ鈴と扇を胸の前に持ち神座に一礼して舞を始める。竈の前に敷いた蓆を中心に並列、対面、ゆるい旋回を繰り返す	舞庭	扇・鈴	なし	白鉢巻・日常着(ジーパン・セーター等)・ゆはぎ(白い羽織)・靴	太鼓・笛		
8:23	順の舞 scene2	同上	竈の前の蓆を外れ、竈の周りを廻りながら舞う。蓆は敷かれたまま	同上	同上	同上	同上	同上		
8:29	順の舞 scene3	同上	竈の前の蓆に戻り、胸の前に扇・鈴を持ち、神座に一礼して退場	同上	同上	同上	同上	同上		
8:30	市の舞① scene1	青年1人	竈の前に敷いた蓆の上で屈伸と上体をそらしながら舞う。右手の鈴は音が出ないように押さえる。後半になると蓆を外れ鈴を振りながら跳躍と屈曲を繰り返す激しい舞	舞庭	扇・鈴・櫛の枝	なし	白鉢巻・ゆはぎ(青色の羽織)・野袴・草鞋	太鼓・笛		
8:37	市の舞① scene2	同上	蓆の上で鈴を鳴らし跳躍を繰り返す。その後しゃがんだ姿勢で竈の周囲を跳躍しながら小走りする	同上	同上	同上	同上	太鼓・笛		
8:39	市の舞① scene3	同上	竈の前の蓆に戻り、鈴を鳴らないように押さえる。両手を広げ神座に礼をせず退場	同上	同上	同上	同上	太鼓・笛		
8:40	市の舞② scene1	青年1人	上記の市の舞とほぼ同じ動作で舞う	舞庭	扇・鈴	なし	白鉢巻・ゆはぎ(青色の羽織)・野袴・草鞋	太鼓・笛		
8:45	市の舞② scene2	同上	蓆の上で左手の鈴を鳴らし跳躍を繰り返す。その後しゃがんだ姿勢で竈の周囲を跳躍しながら小走りする	同上	同上	同上	同上	太鼓・笛・舞手の持つ鈴		
8:47	市の舞② scene3	同上	竈の前の蓆に戻り鈴を鳴らないように押さえる。両手を広げ神座に礼をせず退場	同上	同上	同上	同上	太鼓・笛		
8:51	地固めの舞(扇) scene1	青年2人	湯桶の湯と高杯の塩をまきながら舞手が登場。竈の前に蓆が敷かれている。扇と鈴を持ち舞庭の五方を足踏みをするように舞う。鈴は鳴らないように押さえている。後半になると鈴を振り旋回と屈伸が加わる	舞庭	扇・鈴・湯桶・高杯	なし	白鉢巻・ゆはぎ(青色の羽織)・野袴・草鞋	太鼓・笛・祭文(うたぐら)		写真1
9:03	地固めの舞(扇) scene2	同上	テンポが速くなり「テホへ」のリズムに変わる。舞に旋回と屈伸が加わる。その後扇を開き鈴を鳴らす。竈の周囲を廻りながら舞う	同上	同上	同上	同上	同上		「テホへ」のリズムがはじめて入る
9:39	地固めの舞(扇) scene3	同上	竈の前で扇をたたみ鈴が鳴らないように押さえる。竈に一礼、神座に一礼して退場	同上	同上	同上	同上	同上		係が水の入った盃を釜蓋の上に置く。舞手がそれを飲む
9:45	地固めの舞(剣) scene1	青年2人	左手に刀、右手に鈴を持ち神座に二礼して舞いが始まる。竈の前に蓆が敷かれている。鈴は鳴らないように押さえる	舞庭	刀・鈴	なし	白鉢巻・ゆはぎ(紺色の羽織)・白袴・野袴・草鞋	太鼓・笛・祭文(うたぐら)		酔ったせいと衆から悪態がとぶ

時間	舞の名称	行動主	行動	場所	祭具・持ち物	仮面	装束	音楽	その他	写真番号
9:56	地固めの舞(剣) scene2	同上	「テホへ」のリズムに変わる。鈴が鳴らされ刀を振り屈伸・旋回をしながら激しく舞う	同上	同上	同上	同上	同上	係が盆に入った水、蜜柑を釜蓋の上に置く。途中、舞手に蜜柑を食べさせる	
10:26	地固めの舞(剣) scene3	同上	竈の前で鈴が鳴らないように押さえ、胸前で刀・鈴をかまえ一礼、神座に二礼し退場	同上	同上	同上	同上	同上		
10:31	花の舞(扇) scene1	幼児3人(男児1人、女児2人)	ゆはぎ(白羽織)を着た大人の肩に乗せられ舞庭に入場。竈の前で降ろされ、舞子は扇と鈴を振り、竈の前から時計周りに廻りながら舞う	舞庭	扇・鈴	なし	花笠・赤鉢巻・赤色の花模様様の振り袖・袖無しの青い羽織・紺色の花模様様の袴・草鞋	太鼓・笛	大人は子どもの舞を指導する。せいと衆の老人が舞庭に入ってきて囃す	写真2
10:48	花の舞(扇) scene2	同上	扇をたたみ鈴が鳴らないように押さえ竈に一礼して退場	同上	同上	同上	同上	同上	「よく頑張った」の声援がとぶ	
10:50	花の舞(盆) scene1	小学校低学年から中学年3人(男児1人、女児2人)	ゆはぎ(白羽織)を着た大人の肩に乗せられ舞庭に入場。左手に持つ盆を扇のようにして舞う。途中で盆を係に渡し扇と鈴で舞う。構成は扇とはほぼ同じ	舞庭	扇・鈴・盆	なし	花笠・赤鉢巻・赤色の花模様様の振り袖・赤色の袖なし羽織・緑色の花模様様の袴・草鞋・扇を腰にさす	太鼓・笛	舞庭にせいと衆が入り一緒に舞う。悪態がとぶ	写真3
11:10	花の舞(盆) scene2	同上	扇をたたみ鈴が鳴らないように押さえ竈に一礼して退場	同上	同上	同上	同上	同上		
11:12	花の舞(湯桶) scene1	小学校低学年の男児3人	ゆはぎ(白羽織)を着た大人の肩に乗せられ舞庭に入場。湯桶から湯を飲む振りが入る。途中、湯桶から扇を持ち替えて舞う。全体の構成は扇・盆とはほぼ同じ	舞庭	鈴・湯桶	なし	花笠・赤鉢巻・赤色の花模様様の振り袖・青色の袖なし羽織・緑色の花模様様の袴・草鞋・扇を腰にさす	太鼓・笛	せいと衆が神座のみように盛んに悪態をつく	
11:35	花の舞(湯桶) scene2	同上	扇をたたみ鈴が鳴らないように押さえ竈に一礼して退場	同上	同上	同上	同上	同上	せいと衆が舞庭に入り舞子を盛んに囃す	
11:37	願主の舞① scene1	20代から70代の男性4人	4人が並列になり鈴を振りながら舞う。竈の前から次第に竈周囲を廻る	舞庭	扇・鈴	なし	日常着(ジャージ・サンダル等)にゆはぎ(白羽織)、老人は毛糸の帽子を被る	太鼓・笛	せいと衆の女性が舞庭に入り一緒に舞う	
11:52	願主の舞① scene2	同上	扇をたたみ鈴が鳴らないように押さえ竈に一礼して退場	同上	同上	同上	同上	同上		
11:55	山割 scene1：伴鬼(緑鬼面、赤鬼面)登場	成人男性(伴鬼：緑鬼面)、小学生(伴鬼：赤鬼面)	伴鬼が舞庭に登場(緑鬼面、赤鬼面)。後ろに蹴り上げるようなステップ(へんべ)を踏み鉞を振りながら舞う	舞庭		緑鬼面：刃の部分約30cm、黒色木製の鉞。赤鬼面：約130cmの木製の鉞。刃の部分は黒色、「神」の文字あり。柄は黒と赤色	緑色の鬼面。金色の角2本、小4本。泥眼。金色の小さな牙2本、口を開き赤い舌赤鬼面。プラスチック製のおもちゃの面	緑鬼面：柿色の上衣に同色のたっつけ・柿色の袴・草鞋。赤鬼面は日常着(ジャンパー・ジーパン)	せいと衆の老人が櫛の枝を持って鬼を囃す。「テホへ」の囃し声盛んにおこる	写真4
11:59	山割 scene2：伴鬼(黒鬼面)登場	伴鬼(黒鬼面)	黒鬼面の伴鬼が登場し、他の伴鬼とともに竈の周りを舞う。3鬼とも見得を切るしぐさをする	同上		白木の鉞。約170cm、刃の部分約30cm	黒色の鬼面。金色の角2本、泥眼、牙2本、口を開く	柿色の上衣に同色のたっつけ・白の袴・草鞋		
12:12	山割 scene3：山割鬼登場	山割鬼	係が竈の前に蓆を敷き山割鬼が登場。蓆上で舞う。その後竈の周囲を伴鬼とともにゆっくり廻りながら舞う	同上		刃の部分約60cmの黒色の巨大な鉞。「山」の文字が書かれる。腰前面に扇、腰後面に鈴をさす	緑色の鬼面。金色の角2本(角の付根が赤色)、泥眼。口は閉じ金色の歯と牙2本	青色の上衣に同色のたっつけ・青色の太い袴・前垂(山の文字)・草鞋		
12:16	山割 scene4：松明持ち登場	小学校中学年3人(男児2人、女児1人)	鬼の外周を松明を持ち、手を返しながら足を交互に踏み出す	同上		約70cmの火のついた松明		白鉢巻・紺色の着物・袴・白い袴を斜めにかける・草鞋		
12:37	山割 scene5	山割鬼、伴鬼、松明持ち	音楽のテンポが速くなり、山割鬼、伴鬼が激しくステップを踏む	同上				同上	係がせいと衆にあたらないようにガードをする	

時間	舞の名称	行動主	行動	場所	祭具・持ち物	仮面	装束	音楽	その他	写真番号
12:40	山割 scene6	山割鬼、伴鬼、松明持ち	山割鬼が竈に左足をかけ、続いて伴鬼たちも足をかける。その後鉞を振り上げ3鬼とも竈を割るしぐさをする	同上				同上		
12:48	山割 scene7	山割鬼	松明持ちが退場し、山割鬼は鉞を小型のものに持ち替える。リズムが速くなり舞いが激しくなる	同上	木製小型白木の鉞(約170cm)			同上		
12:51	山割 scene8	山割鬼	竈の前の蓆の上で二礼し退場	同上				同上		
12:51	山割 scene9	伴鬼(緑鬼面、赤鬼面)	激しくステップを踏み跳躍しながら竈の周囲を舞う	同上				同上		
12:53	山割 scene10	伴鬼(緑鬼面)	竈の前で二礼し退場	同上				同上		
12:53	山割 scene11	伴鬼(赤鬼面)	伴鬼(赤)だけ残り激しくステップを踏みながら竈の周囲を舞う	同上				同上	舞庭に幼児が入って来て一緒に舞う	
12:56	山割 scene12	伴鬼(赤鬼面)	竈の前で一礼し退場	同上				同上		
13:00	三ツ舞(扇) scene1	小学校中学年・高学年3人(男児1、女児2人)	右手に鈴、左手に扇を持つ。竈の前で一礼し手を交互に上げ下げしステップを踏む。鈴は鳴らないように押さえている	舞庭	扇・鈴	なし	白鉢巻・ゆはぎ(青色の羽織)・野袴・草鞋	太鼓・笛		
13:11	三ツ舞(扇) scene2	同上	リズムが「テホヘ」に変わり、鈴を鳴らし扇を広げて舞う	同上	同上	同上	同上	同上	せいと衆の老人が舞子を指導する	
13:41	三ツ舞(扇) scene3	同上	竈の前で扇をたたみ鈴が鳴らないように押さえる。竈に一礼して退場	同上	同上	同上	同上	同上		
13:43	三ツ舞(やち) scene1	小学校中学年・高学年の男児3人	左手に木製の刀、右手に鈴を持ち、竈に一礼して舞い始める。鈴は鳴らないように押さえている	舞庭	鈴・やち(木製の白木の刀・切っ先に五色の弊をつける)	なし	白鉢巻・ゆはぎ(青色の羽織)・野袴・草鞋	太鼓・笛	せいと衆の老人が舞子に悪態をつく。係の青年が舞の指導をする	
13:59	三ツ舞(やち) scene2	同上	リズムが「テホヘ」に変わり、鈴を鳴らし刀を振りながら舞う	同上	同上	同上	同上	同上		
14:22	三ツ舞(やち) scene3	同上	竈の前で扇をたたみ鈴が鳴らないように押さえる。竈に一礼して退場	同上	同上	同上	同上	同上	舞の終了後、酔った男性・女性が舞庭で舞う	
14:28	願主の舞② scene1	10代後半から20代の青年4人	鈴を鳴らし扇をかざしながら入場。主に竈前面、神座周辺で旋回しながら舞う	舞庭	扇・鈴	なし	白鉢巻・日常着(ジーパン・シャツ等)にゆはぎ(白い羽織)・靴	太鼓・笛	舞手に激しい悪態がとぶ。せいと衆から「テホヘ」の掛け声と、途中から祭文がうたわれる	
14:43	願主の舞② scene2	同上	竈の前で扇をたたみ鈴が鳴らないように押さえる。竈に一礼して退場	同上	同上	同上			大勢の男性・女性が舞庭に入り騒しながら一緒に舞う	
14:48	榊鬼 scene1: 伴鬼(茶鬼面)登場	伴鬼(茶鬼面)・成人男性	蓆の上で神座に一礼し鉞を振りながら舞を始める	舞庭	白木の鉞(約170cm)	茶色の鬼面。黒色の角2本、泥眼、牙2本、口を大きく開く	柿色の上衣に同色のたっつけ・柿色の袴・草鞋	太鼓・笛	せいと衆から「テホヘ」の掛け声	写真5
14:50	榊鬼 scene2: 伴鬼(赤鬼面)登場	伴鬼(赤鬼面)・小学生から中学生か	せいと衆の老人に手を引かれ舞庭に入場。竈の前の蓆の上で舞を始める	同上	黒色の鉞(約150cm)	赤色の鬼面。黄土色の短角2本、黄土色の出目、口はへの字に閉じ、小さい牙	赤色の上衣に同色のたっつけ、赤色の袴・草鞋、腰に扇をさす	同上		
14:52	榊鬼 scene3: 伴鬼(黒鬼面)登場	伴鬼(黒鬼面)・成人男性	せいと衆の老人に手を引かれ、竈横で舞を始める	同上	白木の鉞(約170cm)	黒色の鬼面。金色の角大2本、緑色の小さな角1本、泥眼、牙2本	柿色の上衣に同色のたっつけ・白の袴・草鞋	同上	せいと衆の老人が伴鬼(黒鬼面)に盛んに悪態をつく	
15:01	榊鬼 scene4: 伴鬼(茶鬼面・赤鬼面・黒鬼面)	伴鬼(茶鬼面・赤鬼面・黒鬼面)	伴鬼達が釜の畦(火口と反対方向)に控える	同上				同上		

時間	舞の名称	行動主	行動	場所	祭具・持ち物	仮面	装束	音楽	その他	写真番号
15:02	禊鬼 scene5：禊鬼登場	禊鬼	竈の前の蓆の上に登場し舞いを始める	同上	巨大な黒色の鉞(約180cm)。「禊」の文字あり。刃の部分約70cm	赤色の鬼面。金色の角大2本、小6本、泥眼、上下に2本ずつ金色の牙、鼻が高い	赤色の上衣に同色のたっつけ・前垂れ(禊の文字)・赤色の太い袴・草鞋・腰前に扇・腰後ろに鈴と禊の枝をさす	同上		
15:04	禊鬼 scene6：松明持ち登場	小学校中学年～高学年の女児3人	竈の両横、畦方向で松明を持つ手を返ししながら足を交互に踏み出す	同上	約70cmの火のついた松明		白鉢巻・紺色の着物・袴・白い袴を斜めにかける・草鞋	同上	「テホへ」の掛け声に子ども達の声も加わる	
15:18	禊鬼 scene7	禊鬼・伴鬼・松明持ち	竈の周りを時計方向にゆっくり回りながら舞う	同上				同上	せいと衆が禊鬼に悪態をつく。係が禊鬼に扇で風を送る	
15:30	禊鬼 scene8	同上	太鼓とともに「テホへ」の掛け声が速くなるがテンポはすぐに元に戻る。これを交互に繰り返す	同上				同上		
15:35	禊鬼 scene9	禊鬼	竈に左足をかけ鉞で竈を割るしぐさをする。伴鬼は三方に控える。その後禊鬼は、右足、左足の順で足を竈にかけ割るしぐさをする	同上				同上		
15:41	禊鬼 scene10	伴鬼(茶鬼面)	伴鬼(茶鬼面)神部屋に退場	同上				同上		
15:43	禊鬼 scene11：もどき登場	もどき	禊鬼が舞を止め蓆の上に直立する。もどきが後ろから禊で鬼の背を二打、呪文を唱えながらさらに二打する	同上	禊の枝		黒色の立烏帽子・ゆはぎ(紺色の羽織)・紺色の袴・草履	同上		
15:44	禊鬼 scene12	禊鬼、もどき	鬼が振り返りもどきと問答をする。その後鬼は正面に向き直り、もどきは鬼の背を三打する	同上	同上			なし		
15:45	禊鬼 scene13	同上	鬼が再び向き直りもどきと問答をする	同上	同上			なし	問答の内容は聞こえない	
15:46	禊鬼 scene14	同上	同じ所作を繰り返した後、鬼はもどきの禊を掴んで取ろうと引き合う。鬼は禊を取ることが出来ない	同上	同上			なし		写真6
15:48	禊鬼 scene15	同上	鬼は禊をあきらめ竈に向き舞を始める。もどきは禊を神座に投げ退場	同上	同上			太鼓・笛		
15:56	禊鬼 scene16	禊鬼	禊鬼は黒の鉞から白木の鉞へ持ち替え、舞のテンポが速くなる	同上	白木の鉞。長さ約170cm、刃の部分約50cm			同上		
16:01	禊鬼 scene17	禊鬼	竈の前の蓆から神部屋へ退場	同上				同上	禊鬼の退場後、せいと衆が大勢竈周囲を旋回しながら舞う	
16:05	禊鬼 scene18	伴鬼(黒鬼面)	伴鬼(黒鬼面)退場	同上				同上	せいと衆からもっと踊れと声が掛かる	
16:06	禊鬼 scene19		伴鬼(赤鬼面)退場	同上				太鼓・笛・祭文(うたぐら)		
16:08	三ツ舞(剣) scene1	小学校高学年から中学生の女児3人	竈の前で一礼し、右手の鈴を押さえたまま手を回す。その後、刀と鈴を交互に上下させながら舞う(五方テンツク)	舞庭	刀・鈴	なし	白鉢巻・ゆはぎ(紺色の羽織)・野袴・草鞋	太鼓・笛・祭文(うたぐら)		写真7
16:32	三ツ舞(剣) scene2	同上	「座がわり」「鈴合わせ」「刀合わせ」を経て、「ツウフ」「四方へんべ」を各自が繰り返す	同上	同上	同上	同上	同上		
16:46	三ツ舞(剣) scene3	同上	鈴を竈の蓋の上に置き、刀を顔の前に構え前に突き出す。剣先を握り前に突き出す所作をする	同上	同上	同上	同上	同上		
16:54	三ツ舞(剣) scene4	同上	剣先を握り刀を下に向けその間をくぐる。刀を垂直にし手を交差して持つ「巻き取り」を経て、竈の蓋の上に置いた鈴を持ち竈に一礼して退場	同上	同上	同上	同上	同上	舞庭にせいと衆が多数入り「テホへ」の掛け声	

時間	舞の名称	行動主	行動	場所	祭具・持ち物	仮面	装束	音楽	その他	写真番号
16:55	願主の舞③ scene1	20代から40代 の男性4人	鈴を鳴らし扇をかざしながら入場。主に竈前面、神座周辺で巡回しながら舞う	舞庭	扇・鈴	なし	白鉢巻・日常着(ジーパン・シャツ等)にゆはぎ(白い羽織)・靴	笛・太鼓	せいと衆から「テホへ」の掛け声	
17:14	願主の舞③ scene2	同上	竈の前で扇をたたみ鈴が鳴らないように押さえる。竈に一礼、神座に一礼して退場	同上	同上	同上	同上	同上		
17:16	岩戸明け scene1	潮吹、みこ	せいと衆に味噌やご飯をつけて歩く	せいと	扇・鈴・すりこぎ(味噌をぬってある)・しゃもじ(飯粒を塗ってある)	潮吹面、みこ面	白い布で頬被り・ゆはぎ(紺色の羽織)・白い袴・野袴・草鞋	太鼓・笛・祭文(うたぐら)	逃げ出す者もいるが、多数は喜んで味噌やご飯をつけられる	写真8
17:17	岩戸明け scene2	おかめ、おさんど	鈴を鳴らし扇をかざしながら入場。竈を廻りながら舞う	舞庭	扇・鈴・赤色の布で荷物を包み斜めにかける・草鞋を腰につける	おかめ面、おさんど面	赤色の布で頬被り・花模様の振り袖(膝下丈)・草鞋	同上		
17:19	岩戸明け scene3	潮吹、みこ、おかめ、おさんど	おかめに続いて、せいとにいた潮吹、みこも舞庭に登場する。男性面、女性面がそれぞれ組になり竈の前と畦で交互に舞う	同上	同上	同上	同上	同上	潮吹とみこはせいと衆に味噌やご飯をつけながら舞う	
17:32	岩戸明け scene4	同上	潮吹とおかめはせいとへ。せいと衆に味噌をつけながら退場	舞庭～せいと	同上	同上	同上	同上		
17:32	岩戸明け scene5	禰宜	潮吹たちと入れ替わりに舞庭に入場。竈の前で腰を曲げ鈴と弊を振りよるよると舞う	舞庭	鈴・弊	焦茶色の老人面(白眉・白髭)	ゆはぎ(紺色に花模様の羽織)・袴・白い袴・草履	同上		
17:36	岩戸明け scene6	翁	ひいな(翁弊)をかかけ鈴を鳴らしながら入場	同上	鈴・ひいな	焦茶色の深い皺の入った翁面(切り顎)	ゆはぎ(紺色と茶色の羽織)・白地に黒縞の袴・白い袴・草履	同上		写真9
17:37	岩戸明け scene7	みこ	鈴を振り扇をかざしながら入場	同上	扇・鈴	白の女性面。能の増女の面に似る	薄紫色の頭巾・大きな花模様の振袖	同上	潮吹たちも再び入場し味噌をつける	写真10
17:39	岩戸明け scene8	翁・みこ	みこの後ろに翁がびつたりとつく。その後翁は退場	同上	扇・鈴・ひいな			同上		
17:45	岩戸明け scene9	禰宜・みこ	禰宜は神部屋へ、みこは一度休憩所に退場するが再び出て来てご飯をつけその後退場	同上				同上		
17:49	願主の舞④ scene1	20代から30代 の男性4人	4人が扇をかざし鈴を鳴らしながら巡回して舞う	舞庭	扇・鈴	なし	「花」の文字が入ったゆはぎ、日常着(シャツ・ジャージ等)・靴	太鼓・笛	せいと衆が舞庭に入り一緒に舞う	
17:58	願主の舞④ scene2	20代から30代 の男性4人、せいと衆	竈の前を中心に舞手とせいと衆がともに舞う	同上	同上	同上	同上	同上	酔ったせいと衆が舞庭に大勢入り「テホへ」の大合唱	
18:02	願主の舞④ scene3	20代から30代 の男性4人	うさぎ跳びのような動作(四方へんべ)を繰り返し竈の周りを廻り、竈に一礼、神座に一礼して退場	同上	同上	同上	同上	同上		
18:04	四ツ舞(扇) scene1	20代の男性4人	紺色の羽織を左右に振りながら入場。竈の前、神座の前で羽織を前後左右に振りながら舞う	舞庭	紺色の羽織	なし	白鉢巻・ゆはぎ(紺色の羽織)・白い袴・野袴・草鞋	太鼓・笛	せいと衆が「テホへ」の合唱	写真11
18:17	四ツ舞(扇) scene2	同上	手に持っていた羽織を着る。釜の蓋の上に置いていた鈴と扇をとる。鈴は鳴らないように押さえ五方を踏みながら舞う(五方テンツク)	同上	扇・鈴	同上	同上	同上	時折せいと衆から祭文が謡われる	
18:31	四ツ舞(扇) scene3	同上	竈の前で鈴合わせで巡回した後、鈴を鳴らしながら舞う	同上	同上	同上	同上	同上	せいと衆が「テホへ」の合唱	
18:46	四ツ舞(扇) scene4	同上	音楽のテンポが速くなり、巡回・屈伸を繰り返す(ツウフ・四方へんべ)。激しい舞	同上	同上	同上	同上	同上	釜の蓋の上に水の入った椀が置かれている	
19:13	四ツ舞(扇) scene5	同上	閉じていた扇を広げ、竈の周りを時計回りと逆方向に後ろ向きに進みながら舞う	同上	同上	同上	同上	同上		

時間	舞の名称	行動主	行動	場所	祭具・持ち物	仮面	装束	音楽	その他	写真番号
19:21	四ツ舞(扇) scene6	同上	竈の周りを激しく跳躍・旋回しながら舞う。太鼓のリズムがゆっくりになり、舞手は立ち上がり竈の前で一礼し退場	同上	同上	同上	同上	同上	舞手が退場した後、せいと衆が舞庭で舞う	
19:27	願主の舞⑤ scene1	中年の男女 (男性3人、女性1人)	鈴を鳴らし扇をかざしながら入場。主に竈の前、神座周辺で旋回しながら舞う	舞庭	扇・鈴	なし	白鉢巻・日常着(セーター・スラックス等)にゆはぎ(白い羽織)・靴、女性は着物・軽衫・草鞋にゆはぎ	同上		
19:41	願主の舞⑤ scene2	同上	竈の前で扇をたたみ鈴が鳴らないように押さえ竈に一礼、神座に一礼して退場	同上	同上	同上	同上	同上		
19:43	四ツ舞(やち) scene1	20代から30代の男性4人	胸前に鈴と刀をかまえ入場。神座に一礼、竈に一礼して舞を始める。鈴は鳴らないように押さえている。五方テンツクを繰り返す	舞庭	鈴・やち(木製の白木の刀。切っ先に五色の弊をつける)	なし	白鉢巻・ゆはぎ(青色の羽織)・白い袴・野袴・草鞋	太鼓・笛	せいと衆からさかんに悪態がとぶ	
20:11	四ツ舞(やち) scene2	同上	テンボが速くなり「テホへ」に変わる。鈴が鳴らされ舞に旋回と屈伸が加わる。刀を回しながら舞う	同上	同上	同上	同上	同上	釜の蓋の上に水の入った碗が置かれる。舞手はその水を飲む	写真12
20:37	四ツ舞(やち) scene3	同上	竈の周囲を激しく屈伸・旋回して舞った後、胸前に鈴と刀をかまえ、竈に一礼、神座に二礼して退場	同上					舞手が退場した後、せいと衆が舞庭で舞う	
20:42	朝鬼 scene1: 伴鬼 (緑鬼面)登場	伴鬼(緑鬼面) ・成人男性	竈の前に蓆が敷かれ神部屋より伴鬼(緑鬼面)が登場し、鉞を振りへんべを踏む。竈の五方を舞う	舞庭	黒い鉞(約170cm)、刃の部分は約50cm	緑色の鬼面。金色の角大2本、小4本、泥眼、牙2本、開いた口から舌が見える(山割の伴鬼と同じ面)	柿色の上衣に同色のたっつけ・柿色の袴・草鞋	太鼓・笛	「テホへ」の掛け声	
20:55	朝鬼 scene2: 伴鬼 (赤鬼面)登場	伴鬼(赤鬼面) ・成人男性	舞庭からせいとに移動し、せいと衆が抱く赤ちゃんをあやす。その後舞庭の子どもに自分の鉞を持たせ、子どもと一緒に舞う。伴鬼は扇を持つ	舞庭～せいと	白木の鉞(約160cm)、刃の部分約30cm	赤色の鬼面。黄土色の短角2本、黄土色の出目、口はへ字に閉じる、小さい牙(山割の伴鬼と同じ)	白い手拭・柿色の上衣に同色のたっつけ・白い袴・草鞋	同上		
21:02	朝鬼 scene3: 朝鬼 (白鬼面)登場	朝鬼(白鬼面) ・成人男性	神部屋から竈の前に敷かれた蓆に登場。蓆の上でへんべを踏む。その後伴鬼とともに竈の周りを廻りながら舞う	舞庭	巨大な黒い鉞(約180cm)、刃の部分は約70cm、月と太陽が裏表に描かれる	白色の鬼面。茶色の角大2本、小2本、泥眼、高く長い鼻、開いた口から上下牙2本	白い上衣に同色のたっつけ・白の太い袴・前垂(赤色の丸が描かれる)・草鞋	同上		写真13
21:10	朝鬼 scene4: 茂吉鬼 (赤鬼面)登場	茂吉鬼(赤鬼面) ・成人男性	神部屋から竈の前に敷かれた蓆に登場。蓆の上で槌を回しながらへんべを踏む。その後伴鬼とともに竈の周りを廻りながら舞う	同上	五色の弊がついた白木の槌(約160cm)、柄の部分にも五色の模様が入る	赤色の鬼面。黒い角大3本、小2本、泥眼、口を開き金色の牙2本	赤色の袖のついた上衣に同色のたっつけ・白の袴・草鞋	同上		写真14
21:27	朝鬼 scene5	朝鬼、茂吉鬼、伴鬼	テンボが速くなり激しく旋回しながら舞う	同上				同上		
21:28	朝鬼 scene6	茂吉鬼	槌を振り上げ、びやっけの中の宝物(蜂の巣)を落とす。硬貨と紙吹雪が落ちて来る	同上				同上	せいと衆が落ちて来た硬貨を拾う	
21:30	朝鬼 scene7	茂吉鬼	茂吉鬼は蜂の巣を2回払い落とし神部屋へ退場。続いて朝鬼も退場	同上				同上	舞庭には残った伴鬼とせいと衆が一緒に舞う	
21:31	朝鬼 scene8	伴鬼(赤鬼面)	神座に向かって話すしぐさをして神部屋に退場	同上				同上	「テホへ」の大合唱	
21:33	朝鬼 scene9	伴鬼(緑鬼面)	伴鬼が竈の周りを鉞を振りながら舞う。その後竈の前で一礼し退場	同上				同上		
21:44	湯ばやし scene1	中学生の男子4名	湯たぶさを振りながら舞庭に入場。竈の前で旋回しながら舞う	舞庭	湯たぶさ(薬を約40cmに切り束ねたもの)を両手に持つ	なし	白鉢巻・ゆはぎ(青色の羽織)・野袴・草鞋	太鼓・笛	係が竈に炭を入れ火をおこす	

時間	舞の名称	行動主	行動	場所	祭具・持ち物	仮面	装束	音楽	その他	写真番号
21:56	湯ばやし scene2	同上	テンポが速くなり舞手は屈伸・旋回を繰り返す。湯たぶさを叩き音を出す	同上	同上	同上	同上	同上	舞庭に大勢の大人子どもが入り一緒に舞う。「テホへ」の大合唱	
22:15	湯ばやし scene3	同上	竈を中心に屈伸・旋回しながら舞う	同上	同上	同上	同上	同上	係が竈に木をくべ火力をあげる。祭文が謡われる	写真15
22:25	湯ばやし scene4	同上	テンポがゆっくりになり「さんや、さんや」の合唱。舞手は両手を広げ竈を囲み飛び跳ねながら舞う	同上	同上	同上	同上	同上	竈の火の勢いが強くなる	
22:28	湯ばやし scene5	同上	「もどりだ、もどりだ」の声とともに後ろ向きに廻る	同上	同上	同上	同上	同上	舞庭は舞手とせいと衆で立錐の余地もない	
22:31	湯ばやし scene6	会場係	釜の蓋をあける。舞手は跳躍をしながら竈の周囲を廻る	同上	なし	同上	紺色の作業着 上下	同上	釜からは湯気が上がる。「テホへ」の大合唱	
22:38	湯ばやし scene7	中学生の男子 4名	しゃがんだ跳躍の姿勢から立ち上がり、煮え立つ釜に湯たぶさをつける。せいと衆に湯を振りかける	同上	湯たぶさを両手に持つ	同上	白鉢巻・ゆはぎ(青色の羽織)・野袴・草鞋	同上	せいと衆から大きな悲鳴が上がる	
22:41	湯ばやし scene8	同上	舞庭、せいとにいる人々に湯をかける。一度テンポがゆっくりになり終わりを予感させるが、再び速くなりさらに湯をかける	同上	同上	同上	同上	同上	せいと衆は水びたしになる	
22:43	湯ばやし scene9	同上	テンポがゆっくりになり舞手は湯たぶさを振りながら竈周囲を舞う。再びテンポが上がり湯を振りまく	同上	同上	同上	同上	同上	舞庭は水浸しになる	
22:45	湯ばやし scene10	同上	テンポがゆっくりになり竈の前に並列して舞う。竈に一礼、神座に一礼して終了	同上	同上	同上	同上	同上		
22:48	獅子 scene1	獅子(男性3人)・潮吹	獅子頭・唐草模様の布で包まれた獅子が潮吹に先導され舞庭に登場。竈周囲を舞う	舞庭	潮吹は五色の弊と鈴を持つ	獅子頭、潮吹面	赤色の獅子頭。泥眼、耳・口は動くようになっている	太鼓・笛	せいと衆から「ししや、ししや」の声がかかる	
22:51	獅子 scene2	同上	潮吹が獅子に湯たぶさをくわえさせ、獅子は釜に湯たぶさを浸け湯を振りまく	同上	獅子は湯たぶさをくわえる	同上	同上	同上		写真16
22:53	獅子 scene3	同上	獅子は潮吹に先導されせいとへ向かう。子ども・大人が獅子の後ろに連なりながら退場	同上	同上	同上	同上	同上		
22:57	宮渡り scene1	花祭関係者数人	中在家花祭保存会会長の挨拶の後、舞庭に吊るされたびやっけ・湯ぶたを降ろす	舞庭	びやっけ・湯ぶた	なし	日常着	太鼓・笛		
23:01	宮渡り scene2	花祭関係者6人	降ろしたびやっけ・湯ぶたを胸前に持ち、左右に揺らしながら竈の周りを廻る	舞庭	同上	同上	同上	同上		
23:03	宮渡り scene3	同上	びやっけ・湯ぶたを頭上で回転させながら舞庭からせいとへ出て行く	舞庭～せいと	同上	同上	同上	同上		
23:17	宮渡り scene4	花祭関係者	びやっけ・湯ぶたを頭上で回転させながらせいとから道路へ出て、中在家熊野神社に運ぶ	道路	同上	同上	同上	なし		
23:19	宮渡り scene5	同上	びやっけ・湯ぶたを宮内に奉納する。「ありがとうございました」の声	中在家熊野神社	同上	同上	同上	同上		